

三島駅南口周辺整備

アナ： 「市長が語る 2025 三島」 第23回の今日は、「三島駅南口周辺整備」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

本日は、三島駅南口で、便利でにぎわいのあるエリアにしていくために進めている、再開発事業を始めとした複数の事業についてご紹介します。

アナ： 三島駅南口東街区の再開発事業は、フェンスの外からもタワークレーンが見えるようになりました。順調に工事が進んでいるようですね。

市長： はい。東街区再開発事業では、医療機能や子育て支援機能をはじめ、商業施設やホテル、住宅、立体駐車場などが整備されます。令和10年2月の竣工に向けて、三島の宝である地下水、湧水の保全対策を万全に行いながら、工事が進んでいます。

アナ： 地下水、湧水と言いますと、今年の4月、5月頃は、昨年に比べて白滝公園や桜川のお水がなかなか増えないと感じていたのですが、どのようなことが要因として考えられますか。

市長： 地下水の水位は、降水量と関連性があるとされており、今年1月から4月までの合計降水量が過去9年間で2番目に少なかったことが背景にあると、各方面の専門家による地下水対策検討委員会で確認されています。

アナ： 雨が少なかったことが要因で、工事による影響ではないですね。

再開発事業区域の周辺の道路でも工事が進められているようですが。

市長： 南口周辺の道路において、災害時に電柱が倒れるのを防ぎ、安全で快適な歩行空間を確保するため、無電柱化事業も進めています。現在、歩道の地下に電線共同溝を整備する工事を進めており、その後、電線などを地中に埋設し、電柱をなくしていきます。

本町の大通りや芝町通りのように、街並みが美しくなることはもちろん、「居心地が良く、歩きたくなるまちなか」づくりにつなげてまいります。

アナ： 「居心地が良く、歩きたくなるまちなか」というのはいいコンセプトですね。

市長： はい。回遊性を高めるための取組として、三島駅南口の駅前広場の改修事業も進めています。三島駅は県内で乗降客数が3番以内に入っており、コロナ禍が終息してからは、インバウンドの方にも数多く利用されています。これだけ多くの方が利用する駅前を、より使いやすく、まちなみの連続性や回遊性を高められる交通結節点・にぎわいの拠点として整備し、「三島市の顔」として魅力あるものにしていきたいと考えております。

アナ： より便利に、かつ魅力的に整備していくということですね。

市長： また、駅前広場を南に下り、文化会館の向かい側、三角の土地の、いわゆる愛染院跡地についても環境整備事業を計画しています。ここには、今から一万年ほど前、富士火山の噴火により噴出した溶岩が、約 40 km 流下し凝固したものである大変貴重な「溶岩塚」であり、市の天然記念物に指定しております。この溶岩塚を活かしたポケットパークの整備を行います。

アナ： 街中にそんな貴重な溶岩塚があるんですね。

車に乗っていると通り過ぎてしまって、知りませんでした。

市長： 三島駅南口周辺は、これらの事業を一体的に進めることで、今後数年で、快適でにぎわいのある、歩きたくなる魅力的な空間に大きく変わっていきますのでご期待ください。

アナ： 歩いて散策することで、新たな発見もありそうですね。私も完成を楽しみに待ちたいと思います。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長：ありがとうございました。